

銀漢亭日録



伊藤伊那男

1月19日(土)

▼青山梅窓院、妻の墓参り。十四時、「纏句会」。今回は太田うさぎ、天野小石さんの女性「名」をゲストに。燕と蟹のあなか、寒鰯の飴煮(兼題)、くえの野菜煮、握り。酒は「開運」。あとゲストを囲み「イタリア」でワイン、ビザなど。

20日(日)

▼昼から成城、桃子の家。妻、光代八回忌(明日が忌日)を気楽な食事会で。義妹の五日市夫妻を呼ぶ。愛媛より河豚取寄せる。孫達があつという間に河豚刺し二皿を平らげるのに驚き。一皿は隠す。

22日(火)

▼ひまわり館「萩句会」に選句。店、対馬さんはじめ「天為」の方々。麒麟君、明日入籍にて今日が独身最後の夜と。終つて、対馬、小石、敦子さんと近所の店。

23日(水)

▼「銀漢」三月号の選句続く。店月の匣の水内慶太主宰一派。赤羽良剛さん四人。真砂年さん。志峯さんシャンパン。有史さんシャンパン。あと洋酔、展枝、敦子、堀切さん……餃子屋。

25日(金)

▼「金星句会」。杉阪大和さんの古稀祝いの会をしたいとて谷岡、堀切が杉阪さんと親しい俳人から祝いの句を集めてアルバムを作り贈る。何と七十句。(きと首回せば飛驒の凍てゆるぶ)ケーキ、シャンパン。他結社の方も駆けつけてくれる。

26日(土)

▼十三時より、全国家電会館にて「銀漢年次総会」。九十人。一五時、湯島天神にてお祓いを受けて新年会。賑やか。終つて三十人程が「銀漢亭」に来て歓談。二十二時過まで。

28日(月)

▼夜の内に雪が降る。二月号発行日。店「湯島句会」。出句百数人、出席三十六人。ニューヨークの中川手鞠、奈良の和田桃さん参加。

30日(水)

▼三月号原稿執筆終了。「春耕新年俳句大会」募集句の選句。選評。約千句あり。洋酔さんに送る。店「雛句会」七人。この会もだんだん賑やかに。

31日(木)

▼日本郵船より問合せの回答あり。叔父、やはり浅間丸に三等運転士として乗船し沈没と。「天為」の方々、発行所句会のと七人。池田のりをさん朽木さん海外勤務の話……宗教の話など。閑散。

2月1日(金)

▼福住家政婦紹介所、今日から中根さん。店、塩釜から照井翠さん。三カ月に一度の「白熱句会」。水内慶太、藤田直子、檜山哲彦さん。今回より「秋」主宰佐怒賀正美さん参加。(井上弘美、木暮陶句郎、小山徳夫さん休み)、居合わせた山田真砂年、照井翠さんにも選句に加わってもらう。

2日(土)

▼九時、整体。骨が軋むほど効く! 散髪、買物。隣駅、高井戸「美しの湯」にて半日身体をほぐす。

4日(月)

▼発行所「かさ、ぎ」勉強会。日野草城と。あと十二人店。皆川丈人さん盤水先生の句集十数冊届けて下さる。

5日(火)

▼「雲の峰」の岡田万壽美さんより実家で作っているという母到来。元気な声を聞かせてくれる。発行所にて事業部、新年会の反省会。客少なし。松山、坪井、谷岡さんなど仲間内だけ。そこへ權未知子、高柳克弘、神野紗希さん来て賑やかに。

6日(水)

▼天気予報通り雪。久々カーテン開けて午前中雪を見て過す。発行所「きさらぎ句会」あと六人。「宙句会」あと句会)。

句会)。阪西敦子さんバリから戻つたその足で。

14日(木)

▼麻里伊さん。小島健さん久々。福永新祇、伊藤庄平さん。屋内松山さんは以前の部下と。あと松山さん等と餃子屋。伊勢神宮の機関誌「瑞垣」に桜の七句送る。宮澤の写真と二頁のコラボ。

15日(金)

▼「野村句会」あと四人。橋本有史、芥ゆかり(天為)、阪西敦子(ホトトギスの誕生日会。小川洋(天為)さんが秋田のきりたんぼ鍋十五人分手配。小野寺清人さんが大量の馬刀貝、例のイカ焼が皆大喜び。シャンパンもボンボン! ざつと二十数名か。そこへ久々、居酒屋放浪記の吉田類さん、歌人の俵万智さんが(今、石垣島在住)。鳥居真里子(門)、川柳のやすみりえさんなど……。賑やか!

16日(土)

▼「纏句会」私の句十句開く。会として久々と。ただ…残る句があつたかというところ……。題の青柳とあさつきのぬた。峠の照焼。ヤリイカ煮。酒は「東光」。あと握り。有便堂にて色紙、たとうなど買つて渋谷。「福ちゃん」に寄り、まぐろ刺、うに、ふぐのつみれ汁で浅酌。どうしても一軒で終わらない私……。

17日(日)

▼高幡不動尊にて「春耕新年俳句大会」。快晴。盤水先生のお墓参り。参加者百三十名程の盛会。下北の畑とほろ、佐渡の山城やえ、佐野の島田ヤスさんなど久々。会えて嬉しい。ヤスさんから手製のしもつかれなどの土産いたたく。あと増田屋の二階にて二次会。「雲の峰」の朝妻力さん一派……。

18日(月)

▼山崎祐子さん仕事仲間と。高校同期の大住光江、浜君。「天為」の編集部。あと閑散。

七人。岐阜から出張で来京の堀江美州さんも参加。店の一つ隣に昨年十月中旬開店の飲食店、数日前からもう閉店。この町の商売は厳しい!

7日(木)

▼発行所「十六夜句会」あと六人店。蔵さん、宗一郎さん。「月の匣」水内、加茂、小山、水香さんなど。

8日(金)

▼午前中三月号の校正。発行所最終校正、編集会議。あと「大倉句会」終つて十二人店。K建設の米沢氏、久々来店。ついつい私も加わつて三人で「白州」は一本空ける。本阿弥書店新年パーティーのあと、鳥居真里子、広渡敬雄、初子、松尾隆信、玲奈、清隆さんなど寄つてくれる。久々繁忙。

9日(土)

▼十時、運営委員会。二日酔。十三時、「銀漢本部句会」五十人。あと水道橋近くの中華料理店「千人。二日酔のまま。

11日(月)

▼平成俳壇選句稿送る。桃子、杏子と多摩の兄の家へ。昼食、鰻丼、刺身など馳走になる。自作のからすみ喜んでくれる。夕方、堀ノ内駅近くの蕎麦屋「一澤」でも馳走になる。

12日(火)

▼買出しの荷が重い。選句をしてついつい六駅程乗り過し戻る。「火の会」七人。今回から冬真さん参加。「天為」編集部。一平、清人さんの気仙沼大島出身の方々。夜雪となる。

13日(水)

▼十二時半、「咸亨酒店」。「梶の葉句会」の多田美記さん第二回銀漢賞受賞のお祝いの昼食会に招いていた。たく。仕込みのあと発行所。「梶の葉句会」の選句。店「はいびと」伊那の井月」の映画監督北村皆雄氏。氏は伊那那北高校の先輩。その同期の井ノ口氏、NHKOBの某氏、後輩の馬場氏(石波書店)、相子智恵、西村麒麟、三重子さんなど。井月つながりの方々の会。別に伊那那北同期の加藤、大野田君(高遠